中期経営計画の取組状況について（平成29年度）

平成26年5月に策定した中期経営計画（2014年～2018年）の平成29年度における取組状況について報告します。

〔 IV 中期経営の重点計画 〕

1. 安全を最優先とする企業風土の構築

「安全・正確・快適」な運行は、鉄道会社に課せられた最大の使命であり、輸送の安全確保を最優先に会社のあらゆる施策の中で徹底し、企業風土として確固たるものにさせることにより、お客さまに安心してご利用していただくことができます。

当社では安全行動規範を定め、この理念に従って全社員が一丸となって、法令規程をよく理解し、確実に遵守して輸送の安全確保に取り組みます。また、お客さまの安全を第一に考え、その信頼に応えると同時に、安全管理体制を維持するため、常に問題意識を持ってその向上に取り組みます。

項 目	平成29年度の主な取組状況
<p>1.法令等を遵守し、輸送の安全確保に全社一丸となって取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸送の安全確保を最優先に自ら考え自ら行動する。 ・一人ひとりが法令等をよく理解し、確実に遵守する。 ・常に安全管理体制をチェックし、改善向上に取り組む。 	<p>「安全方針」を策定し、「平成29年度安全への取り組み」を全社員対象の説明会により、安全方針や法令等の順守を周知徹底した。規程等について各課会議及び乗務員勉強会などで各員に理解・遵守を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多客期など役員添乗や職場巡回を実施 ・経営トップの年頭訓示や年末訓示の実施 ・指導職による系統を超えた点呼の立会いを実施 ・朝礼時に安全綱領と安全行動規範の唱和、ワンポイントKYT(危険予知トレーニング)を実施 ・作業前のミーティングの確実な実施 など
<p>2.安全教育の徹底を図り、知識・技術の向上及び継承に努め、輸送の安全確保に一層、取り組みます。</p>	<p>業務上必要な知識、技術・技能の習得と業務の効率向上に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を実施し、個人の達成度の把握、アドバイスによる個人台帳の作成 ・主任以上の指導添乗による基本動作等の確認チェックの実施 ・乗務報告事項関係綴りにより具体的事象を情報共有化 ・救命講習会の実施 ・乗務員は年6回、指令・駅は年4回の机上勉強会を実施し安全教育を徹底 ・各駅の信号取扱訓練を行い、技術の向上に努めた。 ・他社の事故等を参考に故障防止に役立てるため、運輸局、三セク協等の通達や情報を回覧するなどして周知徹底 ・JR、鉄道総合技術研究所等主催の教育、研修会に参加して安全教育を徹底

	<p>鉄道総合技術研究所他での部外研修 10名 など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務に必要な資格の取得に取り組んだ 第一種電気工事士試験 1名 など
<p>3.様々な訓練を関係機関と連携して実施し、事故や輸送障害への対応力を強化します。</p>	<p>会社独自の列車火災や事故等を想定した訓練や職場内研修だけでなく、鉄道総合技術研究所やJR等の研修会に積極的に参加し、対応力の強化に取り組んだ。沿線5市町村との災害発生時相互協力に関する会議や消防・警察との安全対策に関する会議を開催した。</p> <p>[会社独自の訓練等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル火災避難誘導訓練の実施 ・脱線した列車内で負傷者が発生したと想定して、美作消防署、美作警察署などと合同で訓練を実施（総合事故対応訓練） ・沿線4警察署と合同でテロ対策訓練を実施 ・異常時の運転取扱訓練をJR(智頭駅、上郡駅)と合同で実施 <p>[他機関での訓練等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美作市総合防災訓練、鳥取鉄道部総合事故対応訓練 など
<p>4.内部監査体制を強化し、安全重点施策の推進状況、法令遵守の徹底の確認など、安全管理体制の継続的改善に取り組めます。</p>	<p>安全に係わる内部監査を実施し、安全管理体制をチェックして安全管理に努めた。内部監査員を指名し、監査のための教育訓練を行い、「安全に係わる内部監査手順書」に従って内部監査を実施した（施設課8月、車両課9月、運転課9、12月）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善処理要求書により改善検討事項の確認と対策を実施し、規程の見直し等を行い安全管理に取り組んだ ・情報共有化と各個人の認識の強化に取り組んだ など
<p>5.安全のための改善提案や双方向のコミュニケーションの推進など全社運動を展開します。</p>	<p>経営トップ自らも現場に出向き、現場との一体感の醸成に取り組んだ。また、職場ミーティング等で意思疎通を図るなど、改善提案制度を設けて一人ひとりが安全について能動的に考える取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営トップの列車添乗、線路巡回、職場訪問など実施 ・ヒヤリハット及び気がかり事象の啓蒙 ・改善事項の見える化を図り、フィードバックの実施 ・毎月の各課会議、ミーティング及び勉強会等を開催し情報の共有化、意思疎通を図りながら意見及び提案のくみ上げを実施 ・不具合が発生した場合の報告を「作業報告書」で申告し、情報の共有化を実施 など

2. 効率的投資による安全性と競争力の強化

経年老朽化が進む施設設備や車両に対する修繕工事や更新を計画的に実施し、安全の確保と品質の維持向上、競争力の強化を図ります。また、より一層の安全性の向上

とお客様ニーズを捉えた品質の維持向上、競争力の強化を促進させるため、5年先を見越して2～3年スパンで財務運営を考えながら安全投資・修繕や顧客のニーズを踏まえた接客設備・サービス設備の改造などの取り組みを加速させます。

次期中期経営計画以降に取り組むことが見込まれていた土木構造物等の修繕、設備の更新を先行して取り組みます。外国人を含む幅広いお客様の新たに顕著になってきたニーズに対応するため、特急車両や普通車両の改良、設備更新を追加して実施します。平成28年に発生した線路脇への落石を踏まえて、安全性向上を図るため優先順位をつけて落石防止対策に取り組めます。

項 目	平成29年度の主な取組状況
<p>1.線路や電路設備の修繕及び更新を計画的に実施し、さらなる安全の強化及び品質の維持向上を図ります。</p>	<p>土木構造物検査結果を踏まえ、計画的に安全投資・修繕に取り組んだ。特殊な工事に当たっては、鉄道総合技術研究所や専門コンサル等の助言を受けながら効果的に工事に取り組んだ。今後は、各種検査結果を基に効果的な修繕を実施することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木構造物修繕やレール更換を計画的及び臨時的に実施 ・トンネル内及び橋りょう等のコンクリート片落下防止を実施 ・ATS-P装置の更新など大型工事を計画的に実施 ・落石危険個所における落石防護柵の設置 ・斜面カルテを基にした、3県への落石対策状況の説明及び情報共有 ・乗務員より申告があった信号機のLED化 など
<p>2.特急車両の検査・修繕を計画的に実施するとともに、お客さまのニーズに沿った改良を実施するなど競争力の強化及び品質の維持向上を図ります。</p>	<p>計画的に定期検査やエンジン、変速機等の取替を行った。28年度から取り組んでいるM1車両等のサービス設備の改造工事及び新たにAV装置、冷房装置の更新を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期検査を実施(全検1両、2要検6両、1及び3要検10両)※一部計画変更全検2両⇒1両 ・各種点検・修繕・更新工事について計画通り実施(エンジン取替2台、変速機の取替2台、冷房装置2両更新、冷房装置機器整備31両 等) ・お客様のニーズに沿った改良及び修繕の実施 情報表示機更新(34両)、冷房装置更新(2両)、AV装置更新(34両) など
<p>3.普通列車の検査・修繕を計画的に実施するとともに、地域の魅力を満喫できる運行や列車自体の魅力を高めて新たな需要の掘り起こしを目指します。</p>	<p>計画的に定期点検を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期検査を計画通り実施(要検3両) ・各種点検・修繕・更新工事について計画通り実施(あまつぼし外装リニューアル1両 等) など

『投資・修繕計画』（線路・電気・車両）と29年度実績

（単位：百万円）

区	分	線路	電気	車両	計
5ヶ年間の総額	投資	239	609	1,970	2,818
	修繕	1,167	172	2,953	4,292
	計	1,406	781	4,923	7,110
平成29年度実績	投資	31	85	365	481
	修繕	277	31	645	953
	計	308	116	1,010	1,434
累計(26~29年度) (進捗率)	計	1,064 (75.7%)	594 (76.1%)	3,787 (76.9%)	5,445 (76.6%)

[平成29年度の取組み]

- 1) 2～3年スパンで財務運営を考えながら経営全般と安全投資・修繕や顧客ニーズを踏まえた接客設備の改造やサービス設備の改造、開業当初の電気設備の更新などに取り組んだ。車両と電気設備については、過去3か年の不具合発生状況を分析し、取締役会に報告し、計画的に補修や更新を行った。また、収支状況を考慮しながら工事を施工した。主な投資、修繕工事の概要や工事費等は「智頭急行安全報告書」（2017年度版）に記載しています。
- 2) 土木構造物(上郡～石井間)については、定期検査の結果、何らかの変状が見られる個所数（A判定）18か所（平成28年度末）について修繕工事を行い13か所へと減らすことができた。
また、線路脇への落石の発生に伴い、優先順位の高い場所から落石防止柵整備等、対策を行った。(b-1 2箇所、b-2 1箇所)
- 3) 電気設備については、開業当時のATS-P装置など大型設備の更新を補助金を活用し、計画的に実施した。
- 4) 車両については、経年化に対応するため、計画的にエンジン、変速機等の安全投資を進めた。スーパーはくとの接客設備の改造は、車内情報表示装置や自由席仕様のM1車両の内装改造などに取り組んだ。また、普通列車もイベント列車「あまつぼし」の外装リニューアル工事を行った。

3. 沿線地域等との連携と域外からの誘客

関係事業者と協力して企画商品の開発や自治体、観光団体等と連携して誘送客に取り組めます。また、ITを活用したタイムリーな情報発信及び積極的なマスコミ等への情報提供を行い、知名度のアップを図ります。

項	目	平成29年度の主な取組状況
1.	関係事業者と定期的な協議を行い、鉄道の利用促進に向けた新たな企画商品の開発や広報宣伝等を展開していきます。	智頭線は全国で唯一3県にまたがる三セク路線で沿線は豊かな自然と古くからの歴史と文化の風が香る地である。3つの文化圏がコンパクトにまとまっていることや姫路、岡山、鳥取に1時間以内で行き来で

	<p>きる都市との近接性という地の利を生かして、域外からの誘客で沿線地域が活性化し、列車の利用も伸びるよう沿線市町村や観光団体等と一層、連携を強めることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者に対応した特急列車の多言語対応を実施 など
<p>2.自治体や地域団体と連携協力して域外からの誘客に取り組むため、イベントや広報宣伝、新たな商品開発等に取り組まします。</p>	<p>自治体や観光団体と連携して、京阪神等においてキャラバン等で売り込むなど誘客に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県や市町村、JR等と連携してJR主要駅でのチラシ配布 [(岡山・三ノ宮・姫路・大阪)、Tis販促イベント(大阪駅)、鳥取県と協力した姫路駅かにカニ誘客イベント(物販等設置)]等、共同イベントに参加 ・各駅の「名誉駅長」にあまつぼしお披露目等のイベントに参加していただいた ・「自由席回数特急券」を新たに発売 ・ツアーによる恋山形駅への立ち寄り等への対応 (サンケイトラベルバスツアー、阪急交通社バスツアー他) など
<p>3.普通列車を沿線地域の情報交流の場として活用するなど、地域の一体的交流を応援し、地域間の観光交流と列車の利用促進につなげていきます。</p>	<p>沿線市町村や様々な団体と連携したイベントや四季折々のイベント列車を運行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体(3県5市町村)に普通列車の車内広告枠を無償で提供 ・地域イベント等で積極的に増結等を実施 ・各種イベント列車の運行(風鈴列車、ハロウィン列車、絵画展列車、クリスマス列車、バレンタイン列車、恋チョコトレイン等) ・あまつぼしの外装リニューアル工事を実施 ・普通列車内にタマノカンザシの俳句・短歌を掲出
<p>4.マスコミへの情報提供を積極的に行い、知名度のアップを図ります。</p>	<p>テレビ、新聞、雑誌等に積極的に情報発信した。発信に当たってはマスコミが取材しやすいよう地域とのコラボや物語づくりなど工夫した。また、引き続きイベント情報を中心にツイッターによる情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・智頭急行のイベント情報発信を県政記者クラブにプレスし、新聞等を通じて全国発信 ・新聞社、エージェント関係等、訪問を行って広報活動に努めた ・飲料会社のPRムービーの撮影地として恋山形駅が選ばれた ・各マスコミ取材に応じTV等、ニュース他で取り上げられた (クリスマス列車12月、恋チョコトレイン2月、その他各地テレビニュース等) ・京阪神でラジオ放送

4. 効率経営の追求

知識技術の向上など人材育成に力を入れ、一人ひとりが能力を発揮できる会社づくりと業務効率化による足腰の強い会社づくりを追及します。また、経年老朽化に伴う計画的な修繕投資とともに常に収支状況を分析しながら適時の対応によって収支の安定化に取り組んでいきます。

また、目標値を設定して利用客と収入の確保に努め、お客様の動向やニーズを捉えて時刻設定、編成両数等、列車の運行に活かしていきます。

なお、車両は定期的な検査やエンジン等の更新で安全性を確保していますが、開業当時に取得した車両は20年経過し経年化が進んでいます。通常、特急車両は30年程度、普通車両は40年程度で更新がなされており、今後10年から20年の間にはその時期を迎えることとなります。今後、様々な観点から検討が必要となります。

項 目	平成29年度の主な取組状況
<p>1.安全を最優先に、お客さま重視、スピード感、コスト意識を持って取り組んでいきます。</p>	<p>人材育成や研修等に力を入れ、社員が学び成長しようとする意欲を引き出し応援するため、いろいろな研修の機会を拡充した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール等、寄せられた意見などに対して真摯に対応し改善に活かした。また対応状況をホームページで公開し、多くの方に知っていただくこととするとともに、社員にお客さまの声を大切にすることの大切さを醸成した ・JR、鉄道総合技術研究所等主催の教育、研修会に参加して安全教育を実施 日本運転鉄道協会他での部外研修 10名 中堅リーダー養成、若手社員セミナー 15名など ・幹部会議や年頭訓示等で度々「安全性向上とCS向上」の大切さを経営トップとして訴えた ・職場改善等に繋がる提案を行った社員を表彰した ・MTT（マルチブルタイタンパー(注1)）による作業 ・レール更換など効率的な設備延命に取り組んだ <p>(注1) 作業装置で線路を持ち上げ、左右方向に移動させ、まくらぎ下の道床を高圧力でつき固める保線用機械の一種</p>
<p>2.業務効率化と経費削減に努め、足腰の強い会社づくりを追及します。</p>	<p>「仕事や作業の改善提案」制度を活用し、社員一人ひとりが業務の効率化について考え提案し、改善できる事柄については対応を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備検修の外注検査回数の削減 ・電話機接続端子箱の検査対象箇所見直し ・信号機のLED化 など

<p>3.利用客数や収入の確保に努めるとともに旅客動向やニーズを収集分析し列車運行に活かします。</p>	<p>京阪神等での誘客活動やJR企画商品への参画などで特急利用者の確保を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社への商品設定要請及び協力（スーパーはくとで行く女子旅三朝温泉・はわい温泉） ・JR企画商品への参画（山陽・山陰・北部九州パス、駅プラン商品） ・企画商品告知ポスターをスーパーはくと車内に掲出し広報活動を実施 ・JR駅プランを利用した社員及び関係各社による増収活動を実施 ・専門学校開校に伴い時間割に合わせたダイヤの設定及び高校生の利用時間帯に合わせた増結を行った ・スーパーはくとの外国人旅行者の乗車状況を2か月ごとに行い、施策に活かした。（特急列車の車内放送及び情報表示の多言語化） ・普通列車のイベント車両外装ラッピング
<p>4.利用客数や収支状況を常に分析しながら適時的確な修繕投資に取り組みます。</p>	<p>投資修繕については、収支状況を基に2～3年の期間で取り組むこととし、特に29年度については国の補助金を活用して、落石等の安全対策の強化を図った</p>
<p>5.大規模修繕等に当たっては可能な国の補助を有効に活用します。</p>	<p>平成28年度補正予算により採択された高架橋長寿命化工事及び5月に開催した「第1回智頭線生活交通改善事業計画等に関する協議会」において計画書を作成し、申請して採択されたATS-P更新工事を施工した。なお、平成30年度施工予定の落石防護柵設置、高架橋長寿命化工事及びATS-P更新工事について国に補助金を要望し、国の平成29年度補正予算及び平成30年度予算でそれぞれ採択された。</p> <p>取締役会及び担当者の会議等において、落石対策の必要性を説明し、3県をはじめ、沿線市町村へ協力を引き続き要請した</p>

中期経営計画（投資修繕計画）

車両は20年以上経過しておりメーカーからの材料の供給が難しくなっているために装置自体を更新する必要があり投資金額が計画当初より増加している。また、落石安全対策や橋梁補修など当初、計画していなかった安全対策に取り組んだ。

一方、動力費は計画より単価が安く推移し、収入についても計画当初を大きく上回って推移しており、将来の収支状況に留意しながら新たに必要となった事業や31年度以降の計画事業の前倒し実施している。

（主な新規、前倒工事）

落石防護柵新設、車内情報システム更新、情報表示機更新、自由席仕様のM1車両の内装他更新、冷房装置更新 他

1. 投資・修繕計画（線路、電気、車両）

（単位：百万円）

区分	計画①※				実績見込②				差引 ② - ①			
	線路	電路	車両	計	線路	電路	車両	計	線路	電路	車両	計
投資	239	609	1,970	2,818	236	597	1,866	2,699	-3	-12	-104	-119
修繕	1,167	172	2,953	4,292	1,164	172	2,934	4,270	-3	0	-19	-22
計	1,406	781	4,923	7,110	1,400	769	4,800	6,969	-6	-12	-123	-141

※投資・修繕計画は第93回取締役会(平成29年12月6日開催)において、計画変更を行っています。

2. 年度別実施状況

（単位：百万円）

区分		線路	電路	車両	計	累計進捗率
26年度実績	投資	13	87	208	308	10.9%
	修繕	192	46	492	730	17.0%
	計	205	133	700	1,038	14.6%
27年度実績	投資	22	81	449	552	19.6%
	修繕	215	30	550	795	18.5%
	計	237	111	999	1,347	18.9%
28年度実績	投資	87	202	515	804	28.5%
	修繕	227	32	563	822	54.7%
	計	314	234	1,078	1,626	56.4%
29年度実績	投資	31	85	365	481	76.1%
	修繕	277	31	645	953	76.9%
	計	308	116	1,010	1,434	76.6%
30年度見込	投資	83	142	329	554	95.8%
	修繕	253	33	684	970	99.5%
	計	336	175	1,013	1,524	98.0%
5ヵ年見込	投資	236	597	1,866	2,699	95.8%
	修繕	1,164	172	2,934	4,270	99.5%
	計	1,400	769	4,800	6,969	98.0%

* 中期計画の「その他」投資 59 百万円（計画）、修繕 57 百万円（計画）は含まない。